

令和 5 年度 大学活性化経費 事業成果報告書

事業区分 グローバル化に対応した人材育成に関する事業

申請組織 看護学部

申請組織長 役職名 看護学部長 氏名 杉浦美佐子

統括責任者 役職名 教授 氏名 佐原弘子

課題名 国際的な視点に立った看護職者養成に向けた看護学部海外研修プログラムの開発

	役割	氏名	所属・役職名	役割分担
事業組織	統括責任	佐原 弘子	教授	事業計画立案・運営
	学部責任	杉浦美佐子	教授	学部内運営等全体確認
		早川幸博	教授	学部内運営管理
		奥川ゆかり	准教授	学部内運営管理
事業運営	池俣 志帆	准教授	海外研修希望調査等 必要書類の作成、準備	

1. 事業開始の背景・経緯や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

2010 年に看護学部が開設され 10 年以上経過し、卒業生は就職先にて高い評価を受けており、豊かな教養と看護実践能力を備えた看護職者の育成を目指した、看護学部の初期の教育目標は達成できている。しかしながら、昨年の外部評価・自己点検評価の結果より、国際的な視野をもち多文化共生社会を目指した文化多様性の教育について、課題が残る点として指摘された。アフターコロナを見据え、グローバル化に対応した人材を育成するため「看護基礎教育において文化多様性の理解を深め、国際的な視野を持つ看護職者の養成すること」を本事業の目的とし、今年度の目標を①海外研修プログラムの開発、②文化多様性の理解を深めるカリキュラム改正の準備とした。

2. 事業方法（特色・独創性）等 (300 字程度で記述)

1. 情報収集および第 4 次新カリキュラム改正準備

海外研修プログラム開発のため、近隣他大学の海外研修の状況調査、本大学看護学部学生の研修への参加希望などについて情報収集を行う。また、第 4 次新カリキュラム改正において、文化多様性および国際看護に関する講義科目を充実できるよう検討を行う。

2. 海外研修準備のための視察

教育学部が海外研修を行っているオーストラリアシドニーにおいて海外研修プログラムを開発予定である。海外研修プログラムとして、医療英語研修、医療福祉施設の見学、シドニー大学看護学生との交流、シミュレーション講義の受講などを予定しており、現地コーディネーターと事前打ち合わせ後、現地視察を行い、2024 年度 3 月導入に向けて準備を行う。

3. 事業の成果 (600字～800字程度で記述)

1. 情報収集および第4次新カリキュラム改正準備

近隣看護系私立大学の海外研修状況としては、金城学院大学（オーストラリア）、名古屋女子大学（デンマーク）、名古屋学芸大学（オーストラリア）、人間環境大学（米国）、日本福祉大学（米国）、豊田赤十字看護大学（米国）、藤田医科大学（タイ）とすべての大学において、何らかの看護研修プログラムを実施していた。授業単位としている大学は少ない状況で、ほとんどの大学が研修プログラムとしていた。

本大学看護学部学生の海外研修ニーズ調査を2023年7月1,2年生に実施した。1,2年生約220名中127名から回答があり、2月に実施予定をしている教育学部の海外研修参加希望が15.7%（20名）あり海外研修ニーズが高いことが明らかとなった。今回、2024年2月の教育学部の海外研修は再試験期間も含まれ、再試験となった学生が卒業延期となる可能性があり、希望しなかった学生も多い。そのため、海外研修希望者は潜在的にさらに多いことが見込まれる。

2. 海外研修準備のための視察

2024年度2月に行われる教育学部海外研修を行っているオーストラリアシドニーにおいて海外研修プログラムを開発予定である。教育学部学生が保育園・小学校などでインターンを行う1週間で医療施設などの見学研修に充てるスケジュールを検討した。2023年9月実施の教育学部海外研修に1週間同行し、現地の看護学部を持つ大学の視察、医療施設の視察を行った。現地コーディネーター打ち合わせを行い、添付資料のプログラムを作成した。2024年2月実施の教育学部海外研修に6名の看護学部生（1年生）が参加している。本プログラムでは、教育学部学生・看護学部学生が同じプログラム内でテーマ研究を行い、学部間交流ができています。さらに、各学部の学びが深まるインターン・施設見学が個別化されており、新しい海外研究の形となっている。

4. キーワード (本事業のキーワードを1つ以上8つ以内で記載)

① 学部間交流	② 海外研修プログラム	③	④
⑤	⑥	⑦	⑧

5. 事業の達成状況及び今後の課題 (事業の達成状況を踏まえて、課題、反省点、及び今後の取組みを具体的に記載すること。)

本事業の目的である、①海外研修プログラムの開発の準備については、近隣看護系私立大学の状況調査、本学看護学部学生の海外研修希望調査を実施し海外研修プログラムの必要性が明確となった。また、2023年9月に行った現地の視察により、2024年3月教育学部の海外研修に看護学部学生が参加し看護学部プログラムの基盤が開発された。

また今後の課題として、看護学部独自のプログラムを開発する必要がある。文化多様性の理解を深めるカリキュラム改正の準備として、椙山女学園大学では、教育学部をはじめ、海外研修をカリキュラム内に位置づけ、授業単位として取得できるようになっており、将来的に単位取得した実績が成績表に残せるようになってきている。看護学部としても、第4次新カリキュラム改正において、文化多様性および国際看護に関する講義科目として海外研修を位置付けることが他大学との差別化につながる可能性が高い。また、看護学部のカリキュラムの特性から、2～3週間で再試験期間を含まないプログラムとすることが重要である。